



PERSOL

パーソル 総合研究所

はたらくソーシャル・リスニング／25年上半期

調査結果

株式会社パーソル総合研究所 シンクタンク本部

目次

本報告書の目次

3P	導入／調査概要	導入
		調査概要
5P	25年上半期の投稿増加率 上位ワード	増加率 上位5ワードとその解説
		増加率 上位6-10ワードとその解説
		増加率 上位11-20ワードとその解説
		増加率 上位ワード グラフ
9P	25年上半期の投稿減少率 上位ワード	減少率 上位5ワードとその解説
		減少率 上位6-10ワードとその解説
11P	25年上半期のピックアップ・トレンド	①「年収の壁」見直しの議論
		②レディネス・非認知能力の話題
		③就活関連の話題
14P	【参考】過去のソーシャル・リスニング分析	2023年度-2024年度投稿増加率上位ワード(上位20ワード)

近年、雇用を取り巻くトレンドは人事や経営だけではなく、一般就業者や生活者の耳目を集めるようになった。働き方改革、賃上げ、外国人雇用、リスニングなど、メディアで大きく取り上げられるようなトピックは日々移り変わっている。人材マネジメントや組織運営を時代に適応させていくにあたり、そうした生活者全体の潮流やトレンドを理解することが重要になる。その一方で、一般的に行われる質問紙調査では、こうしたトレンドの移り変わりについて即時的・直接的に把握することが難しいという課題がある。

そこで、パーソル総合研究所では、2023年より、日々更新され続ける各種SNS・ブログ・掲示板・レビューサイト等のデータをリアルタイムに分析できるツールを用いて、個人の「生の声」を収集・分析する本プロジェクトを開始した。「はたらくソーシャル・リスニング」として、より現場や生活に近い位置から、労働市場全体の動向理解に資するものとして、定期的な分析と発信を行っていく。

目次

調査概要

調査名称	パーソル総合研究所「はたらくソーシャル・リスニング／25年上半期」
調査内容	<ul style="list-style-type: none">・インターネット上の投稿内容から、労働・組織に関わるトピック・トレンドの現状を理解する。・時系列での比較によって雇用関連のトレンドを動的に把握する。
調査対象	<p>■データ収集 日本全国のSNS、ブログ、ニュース、掲示板、レビューサイトなど日本国内10万ドメインのデータソースより投稿データ(サンプリングデータ)を取得。「労働」「人材マネジメント」「組織」「働く」関連のワードが含まれる投稿について分析</p> <p>■データ取得先 X、YouTube、各種ブログ、掲示板、各種ニュースサイト、レビューサイトなど</p>
調査方法	SNS分析ツール Quid Monitor(TDSE株式会社提供)を使用し、パーソル総合研究所分析
調査時期	2025年度上半期(4月1日－9月30日)と24年度同期の投稿データ比較
実施主体	株式会社パーソル総合研究所

引用について:本調査を引用いただく際は出所を明示してください。出所の記載例:パーソル総合研究所「はたらくソーシャル・リスニング／25年上半期」

※報告書内の構成比の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも100%とならない場合がある

1

25年上半期の投稿増加率上位ワード(上位5ワード)

2025年上半期において、前年同期からの投稿増加率が高かったトピックは以下。

※25年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。小数点以下の数値の関係上順位に差があるものがある。

順位	ワード	2025年度 メンション数	前年同期比・ 増減率(%)	解説
1位	106万円の壁	263,400	2,895	2025年の年金制度改正法で月額8.8万円(年106万円)の賃金要件が撤廃され、週20時間以上であれば社会保険加入が原則になる方針が報じられた。これにより従来の「壁」を意識して働き方を抑えていた層から反響が起き、SNSで拡散した。
2位	レディネス	29,950	1,361	組織・個人の「変化対応力(準備度)」を測る指標として、DXや人材育成戦略の領域で新技術・働き方の変化に備える「レディネス」の概念が導入される事例が増加。
3位	103万円の壁	224,350	1,328	税制改正で基礎控除・給与所得控除の拡充が決まり、従来の103万円ラインが実質的に123万円まで引き上げられる見通しとなった。これによって「103万円以内調整」が時代遅れになるかもという関心がSNSで高まった。
4位	サイレントお祈り	10,000	1,176	採用選考で不採用を通知しない「サイレントお祈り」が企業の対応として批判され、「誠実性・候補者体験」観点からSNSで話題に。通知義務化論も議論された。
5位	就活セクハラ	7,950	1,060	2025年6月の法改正で、就職活動中のセクハラ防止措置が企業に義務付けられることが決まり、被害告発と合わせて注目を浴びた。選考段階の対応変化が議論を呼んだ。

1

25年上半期の投稿増加率上位ワード(上位6-10ワード)

2025年上半期において、前年同期からの投稿増加率が高かったトピックは以下。

※25年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。小数点以下の数値の関係上順位に差があるものがある。

順位	ワード	2025年度 メンション数	前年同期比・ 増減率(%)	解説
6位	就労ビザ	326,700	772	外国人労働者受け入れ拡大と制度見直し(特定技能、育成就労など)が報じられ、人手不足対応策として就労ビザの条件や申請実務に関心が集まり、SNSで情報交換が増えた。
7位	タレントマネジメント	66,750	767	人的資本経営・スキル可視化のニーズの高まりで、社員情報管理・育成戦略として「タレントマネジメント」の導入事例が増加。事例が共有され話題になった。
8位	服務規律	9,250	685	教員による性暴力事件が相次いで発覚したことを受け、文部科学省が7月、全国の教育委員会に通知を出し、教員の服務規律の確保を徹底するよう指導した。
9位	通勤手当	316,900	569	交通費・ガソリン代高騰、在宅勤務との兼ね合いで、通勤手当制度の見直し(実費精算、非課税枠調整など)が話題化し、労働者・企業双方の関心を呼んだ。
10位	通称使用	352,350	569	旧姓や通称名使用(メール・名札対応など)の制度化・運用実態がメディアで取り上げられ、個人名表示の自由や制度整備がSNS上で関心を集めた。

1

25年上半期の投稿増加率上位ワード(上位11-20位)

2025年上半期において、前年同期からの投稿増加率が高かったトピックは以下。

※25年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。小数点以下の数値の関係上順位に差があるものがある。

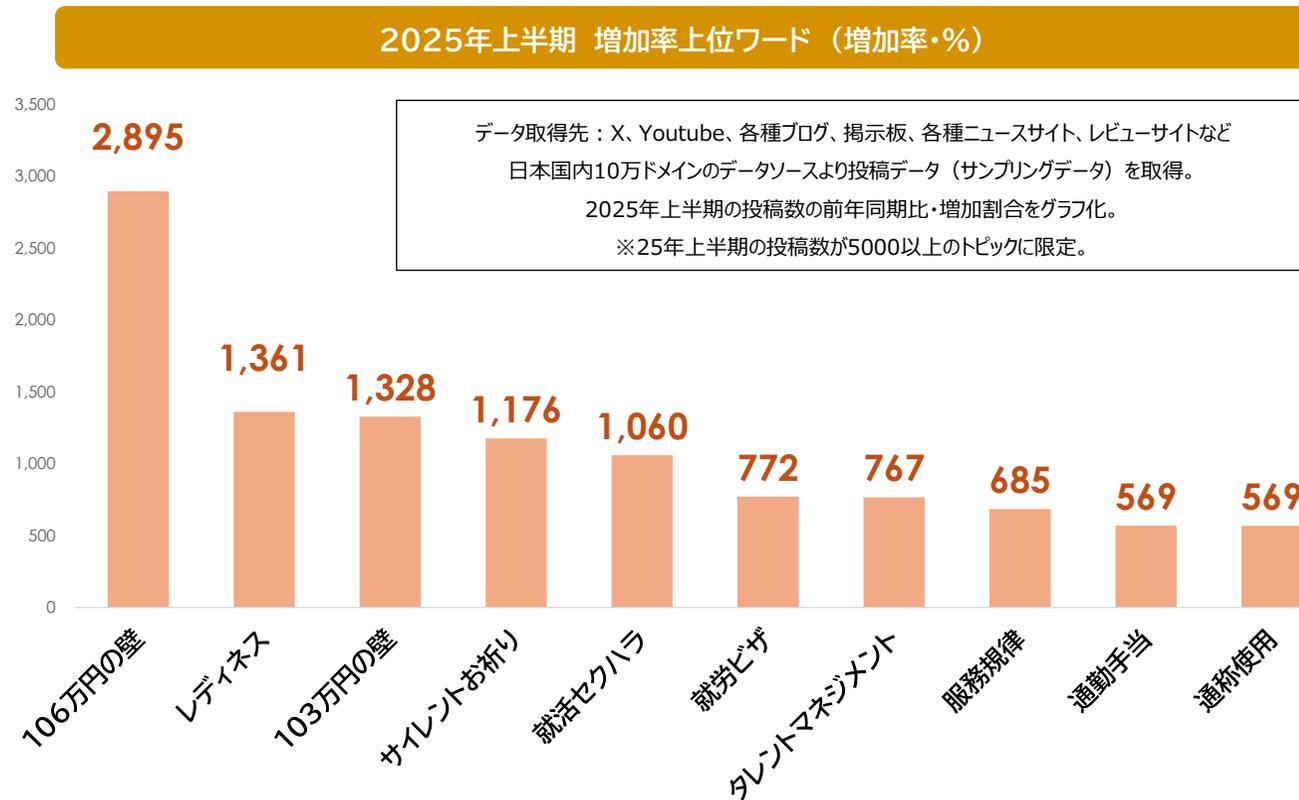
順位	ワード	2025年度 メンション数	前年同期比・ 増減率(%)	順位	ワード	2025年度 メンション数	前年同期比・ 増減率(%)
11位	レジリエンス	158,150	459	16位	社外監査役	6,100	321
12位	産業カウンセラー	27,900	388	17位	キャリア・オーナー シップ	6,250	313
13位	労働力不足	226,100	355	18位	税制改正	114,300	304
14位	エンゲージメント	685,500	350	19位	就職氷河期	657,450	304
15位	採用マーケティング	6,300	323	20位	リクルーター	59,650	303

1

25年上半期の投稿増加率上位ワード 10位までのグラフ

2025年上半期において、前年同期からの投稿増加率が高かったトピックをグラフ化した。

※25年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数：該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。



2

25年上半期の投稿減少率上位ワード(上位5ワード)

2025年上半期において、前年同期からの投稿減少率が高かったトピックは以下。

※25年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。小数点以下の数値の関係上順位に差があるものがある。

順位	ワード	2024年度 メンション数	前年同期比・ 増減率(%)
1位	2024年問題	23,750	-86
2位	非正規公務員	20,800	-78
3位	配偶者控除	32,900	-77
4位	人手不足倒産	12,800	-77
5位	週休3日制	9,350	-74

✓ 2024年問題

24年4月のドライバー残業上限(年960時間)施行で、議論は「標準的運賃」や違法な荷主行為を是正・監視する「トラックGメン」等の実装・是正に移行。危機喚起の総称語は役割を終え、個別論点へ分散し露出が低下。

✓非正規公務員

制度呼称が「会計年度任用職員」へ統一・定着。24年度の総務省調査で約66.1万人と規模把握が進み、再任用上限や休暇制度の運用見直しなど“制度名”での具体論へ移行し旧称の出現頻度が相対低下。

2

25年上半期の投稿減少率上位ワード(上位6-10ワード)

2025年上半期において、前年同期からの投稿減少率が高かったトピックは以下。

※25年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。小数点以下の数値の関係上順位に差があるものがある。

順位	ワード	2024年度 メンション数	前年同期比・ 増減率(%)
6位	ノマドワーカー	6,950	-70
7位	年俸制	5,450	-67
8位	就業率	10,700	-65
9位	雇い止め	32,300	-64
10位	イクメン	19,700	-64

✓ ノマドワーカー

国内のテレワーク実施率はパーソル総合研究所調べで横ばい傾向が続く。一方で24年に外国人向け「デジタルノマド」在留資格が創設され、話題が“ビザ情報”へ移行。旧来の「ノマドワーカー」語の露出が後退。

✓ イクメン

ラベルの時代遅れ化が進み、政策・広報は「男性育休」「共同育児」へ。24年度の男性育休取得率は過去最高の40.5%に到達し(※)、用語の置換と価値観の更新で「イクメン」言及が後退。 ※ 厚労省「雇用均等基本調査」

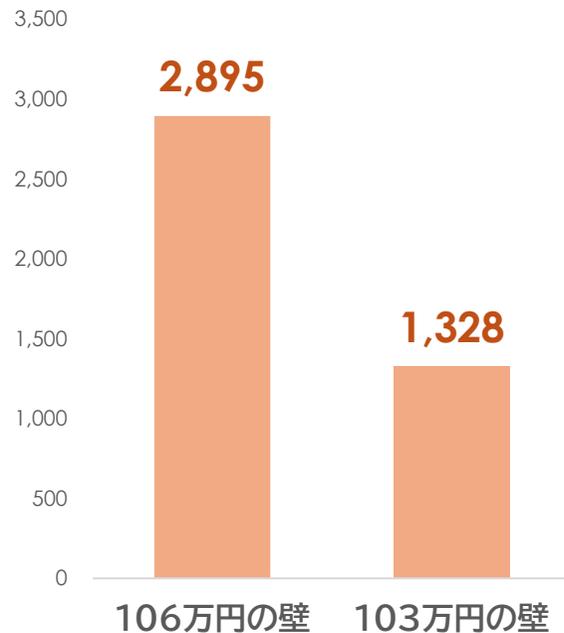
3

25年上半期のピックアップ・トレンド① 「年収の壁」見直しの議論が引き続き話題に。

2025年上半期において特に目立ったトピックについてピックアップした。

※25年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数：該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。

2025年上半期 投稿増加率(%)



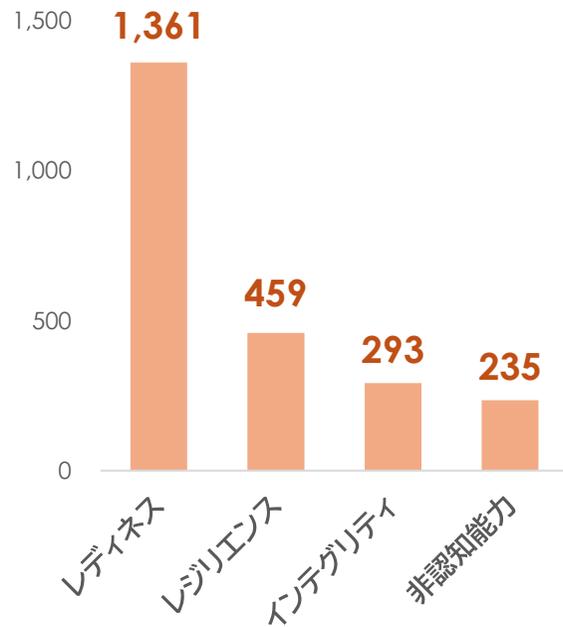
- ✓ パートやアルバイトなどの短時間労働者において、社会保険料や所得税負担が発生して手取りが減る「年収の壁」の見直しの議論が引き続き盛んに。
- ✓ 物価高や労働力不足を背景に、順次、年収額の見直しが進んでおり、その解説や具体的金額、時期などについて今後も引き続き話題を集めそう。

3

25年上半期のピックアップ・トレンド② レディネス・非認知能力の話題が増加。

※25年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。

2025年上半期 投稿増加率(%)



- ✓ 生成AIや機械学習が業務を部分的に代替する中で、人間にしか担えない能力が相対的に語られやすくなったことが背景にある。
- ✓ 同時に企業が人的資本を可視化・強化する必要が出てきており、回復力・復元力(レジリエンス)、信頼性・誠実性(インテグリティ)や準備度(レディネス)などの様々な指標が話題に。
 その中では、「DXレディネス」としてデジタルを使った課題解決力の育成に当たる事例が出てきている。

3

25年上半期のピックアップ・トレンド③ 就活関連の話題

※25年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。

2025年上半期 投稿増加率(%)



- ✓ 2025年卒の内定率が過去最高水準(約93%)に達し、人材獲得競争が激化。企業が学生を選ぶ時代から、学生が企業を選ぶ時代に転換し、応募者体験の「質」が可視化されやすくなったことが背景にある。
- ✓ 政府も2025年6月に施行した男女雇用機会均等法改正で「採用時ハラスメント防止措置」を企業義務化。これにより、面接官教育や接点管理の不備が注目され、「就活セクハラ」告発が連鎖的に拡散。



PERSOL

パーソル 総合研究所

[参考] 過去のソーシャル・リスニング分析結果

株式会社パーソル総合研究所 シンクタンク本部

[過去結果] 2024年度(下半期)の動向

2024年度下半期の投稿増加率上位ワード(上位10ワード)

2024年下半期(2024年10月1日-3月31日)において、前年同期からの投稿増加率が高かったトピックは以下。

※25年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。

順位	ワード	2024年度 メンション数	増減率(%)	解説
1位	103万円の壁	3,251,000	138,340	配偶者控除に関連する所得制限「103万円の壁」について、与野党の間で、見直しの議論が活性化。労働力不足が深刻化する中で、収入が一定額を超えないように働く時間を調整する、いわゆる就業調整を防ぐ狙いがある。
2位	通称使用	788,300	17,916	通称使用とは、法的な氏名(本名)とは異なる名前を、日常生活や社会活動において使用することを指す。選択的夫婦別氏制の導入を巡る問題が活発化し、それに関連付けて通称使用の取り扱いなどについても議論が盛り上がった。
3位	ドナー休暇	18,600	3,720	骨髄や末梢血幹細胞を提供する際に、従業員が特別休暇を取得できる制度。ドナーとして選ばれても、仕事の都合で提供を辞退するケースが多く、厚生労働省はドナー休暇の導入を推奨・啓発しており、企業における導入も一部で広がりを見せている。
4位	106万円の壁	309,150	3,595	「103万円の壁」と同様に一定の条件で社会保険(厚生年金・健康保険)に加入が必要になる「106万円の壁」についても、見直しの議論が起こっている。企業の負担を減らすための助成金制度なども検討されている。
5位	ソーハラ	10,100	2,020	「ソーシャルハラスメント」の略称で、SNSを通じた嫌がらせや不適切な行為を指す。上司が部下のSNS投稿を逐一チェックしてプライベートな活動に干渉したり、友達申請やフォローを強制するといった新たなハラスメントの形が話題に。
6位	通勤手当	669,650	1,579	政府の税制調査会において、通勤手当の非課税措置の見直しが議題に上り、一時的に話題に。防衛費や少子化対策の財源確保の一環として、これまで非課税とされてきた通勤手当に課税する案が浮上。
7位	年収の壁	1,304,800	1,253	「103万円の壁」「106万円の壁」と同様。
8位	休業支援金	10,800	1,029	2025年4月より「出生後休業支援給付金」がスタート。共働き・子育てを推進するため、子の出生直後の一定期間に両親ともに14日以上育児休業を取得した場合に、最大28日間分の給付金が支給される。
9位	スモハラ	10,250	976	「スモークハラスメント」の略称で、主に職場において、喫煙者が非喫煙者に対して喫煙を強要したり、たばこの煙にさらすなどの嫌がらせ行為を指す。喫煙者が非喫煙者からの圧力や配慮要求に対して感じるハラスメントを「逆スモハラ」と呼ぶ動きが話題に。
10位	ガラスの天井	123,750	831	能力や実績にかかわらず、性別や人種などを理由に昇進やキャリアアップが阻まれる見えない障壁を指す。

過去の分析結果

[過去結果] 2024年度(上半期)の動向

2024年度上半期の投稿増加率上位ワード(上位10ワード)

2024年上半期(2024年4月1日-9月30日)において、前年同期からの投稿増加率が高かったトピックは以下。

※25年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。

順位	ワード	2023年 メンション数	2024年 メンション数	増減率 (%)	解説・関連する主な出来事
1	通称使用	6,200	61,950	999.2	自民党総裁選における選択的夫婦別氏制を巡る議論のなかで、職場などでの通称使用について多くの言及がなされ、ネットでの議論も盛り上がりを見せた。
2	スポットワーク	5,750	35,700	620.9	前年から今年にかけて、スポットワーク・スキマバイト市場が大きく伸長。大手プラットフォームの参入や上場など、事業者側の経営動向も大きな話題を呼んだ。
3	カスハラ／カスタマーハラスメント	101,150	580,150	573.6	顧客からの迷惑行為・過剰要求であるカスハラについて厚労省・自治体による条例・規制強化の流れが加速した。各機関の定量的な調査も進み、メディア報道が激増。世間の耳目も集まった年となった。
4	2025年の崖	1,000	5,150	515.0	経産省が2018年のDXレポートの中で、システムの老朽化や人材不足により2025年以降、最大12兆円／年(現在の約3倍)の経済損失が生じる可能性があるとした用語。2025年が来年に迫る中で言及が増加した。
5	人手不足倒産	11,750	55,450	471.9	人手不足倒産が過去最高ペースで増加。背景には、建設・物流の長時間労働を規制した「2024年問題」がある。
6	戦略人事	1,350	5,950	440.7	人的資本経営・人的資本開示の流れの中で、中長期の経営戦略と人事戦略の連動が各社で課題に。
7	ガラスの天井	12,150	46,700	384.4	米大統領選挙戦の中で、クリントン元長官がハリス副大統領に対してガラスの天井を破ることを期待。日本企業において進まない女性活躍推進の文脈でも言及が集まった。
8	ギグ・ワーカー	2,300	8,600	373.9	フードデリバリーや配車サービスの運転手など、プラットフォーム経由で仕事を請け負うギグ・ワーカーに対し、アメリカやEUで待遇改善の動きが活発化。日本でも厚労省が2024年度中に指針を出す見込み。
9	整理解雇	8,700	31,450	361.5	自民党総裁選で複数の候補者から解雇規制の緩和がアジェンダ化された。それにより、一時的に日本の解雇規制の在り方に対する議論が活発化。
10	非正規公務員	31,150	94,900	304.7	「会計年度任用職員」と呼ばれる非正規の公務員に対し、待遇の改善を求める動きが広がる。

過去の分析結果

[過去結果] 2023年度(年間)の動向

2023年度投稿増加率上位ワード(上位20ワード)

2023年度(2023年4月1日-24年3月31日)において、前年同期からの投稿増加率が高かったトピック上位。

※23年度のメンション数が10000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。

順位	ワード	2022年度 メンション数	2023年度 メンション数	増減率 (%)
1	ガラスの崖	1,000	23,850	2385.0
2	通勤手当	32,500	489,600	1506.5
3	2024年問題	57,600	473,250	821.6
4	ソーシャルスキル	9,350	45,100	482.4
5	在留資格	423,750	1,929,900	455.4
6	特定技能	119,300	540,550	453.1
7	扶養控除	754,000	3,104,150	411.7
8	オワハラ	3,400	13,400	394.1
9	人手不足倒産	8,800	31,800	361.4
10	定年後再雇用	3,300	11,850	359.1

順位	ワード	2022年度 メンション数	2023年度 メンション数	増減率 (%)
11	65歳定年制	3,100	10,300	332.3
12	高齢者雇用	3,450	10,950	317.4
13	インテグリティ	9,200	24,350	264.7
14	内部通報	31,800	78,800	247.8
15	業務請負	4,650	11,500	247.3
16	外国人労働者	410,350	1,000,950	243.9
17	偽装請負	18,450	43,500	235.8
18	年収の壁	88,350	207,000	234.3
19	3K労働	7,750	17,600	227.1
20	マイクロアグレッション	29,300	61,900	211.3